

日本共産党青森県議会議員

安藤はるみの

# 新・アジサイだより



1月20日  
商工労働観光エネルギー  
委員会での質問

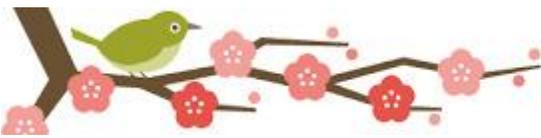


●日本原燃株式会社「安全・品質本部」が未実施の対策を対応済みとしたなどの問題を追及  
県は「遺憾であり会社に対し、国への報告を県に対しても行うよう求め、今後厳しく注視していきたい。」とするものの、原子力規制委員会の田中委員長が「組織全体に相当問題がある」と指摘したほどです。

## ●高レベル放射性廃棄物の最終処分地の選定

が進まない状況下、六ヶ所貯蔵する期限30年から50年経過しても県外に搬出することが困難なのではないか。(すでに最初に貯蔵したものは30年近く経過。処分地の選定手続きは20年程度みこまれるのです)

●県内の非正規雇用の状況と正規雇用化に向けた取組について問う  
県は「正規雇用化は重要な課題だ」という認識を示し「県内各地の企業訪問などを行い正規雇用化を働きかけていく」などとしましたが、何よりも企業が元気になるためには消費者の購買力を高められる政治の改革が必要だと訴えました。



共闘の

力で退治

安倍は外

(はるみのワクワク川柳)

1月23日から24日

議会運営委員会県外調査で岩手県・秋田県の議会を調査(写真)

青森県議会は、議会改革の一環で一般質問の方法を検討しています。現在青森県議会では、質問方式が一括方式で、すべてが一括方式で、すべての質問・答弁が一括でされるため傍聴者にはわかりにくいものとなっております。

調査に行った岩手県では、一括・一問一答を議員が選ぶことが出来、秋田県は最初の質問を一括で行い再質問を一問一答で行う方式でした。持ち時間や再質問のあり方なども勉強になり、青森県も大いに学ぶべき点がある調査となりました。



1月24日 秋田県議会事務局よりききとり

### ほっとタイム

我が家のごみ減量



「有料化するからごみを減らせ」なんて言われたくありません。家庭ごみはすでにみなさん減量に頑張っていますよ。我が家でも、いろいろ工夫しています。新聞紙や雑紙は市でも回収しています。私は月一度回収に来てくれる福祉施設に提供しています。市の回収の「その他の紙」以外の紙類はすべて雑紙としてまとめます。いらなくなったレシートやメモ用紙から、失敗したコピー用紙・生協の注文用紙、チラシ類などで、けっこうの量になります。

また、着なくなった衣類でバザーにも出せない物やタオル類などは小さく切って、台所や洗面所に置いてふき取るのに重宝します。発泡スチロールのお皿は洗って溜めておいて、近くのスーパーの回収箱に。生ごみは雪の季節以外はコンポストに。

チューブに入った物は、何でも最後の頃しほりずらくなるので、容器を半分は切って使い切る。化粧品などもこれで苦勞せずすべて使い切ることが出来ます。プラスチック製品回収も再開してほしいものです。

ごみの処分が苦勞することがあります。秋の枯葉です。我が家は大きく育ったコブシやブナの木があるので枯葉の量が半端ではありません。バイオマスやたい肥づくり目的でこの季節限定の枯葉回収を自治体を取り組んでくれたらどんなにいいかと思えます。また、生ごみや廃油を再利用する取り組みも始めてほしいものです。有料化しなくても市民と自治体の知恵と協力でごみ減量は着実に実現できるのではないのでしょうか。

■皆さんの「ご意見」・「ご要望」をお寄せ下さい。■「生活相談」お気軽にご連絡下さい。1月の相談対応5件。

発行：安藤はるみ

事務所 弘前市宮川2丁目3-2 電話0172-35-7021  
10:00~15:00(土・日・祝日休み 留守電対応)

自宅0172-35-2270

1月のホームページアクセス数  
30,564件

Eメール ando.harumi@theia.ocn.ne.jp ホームページアドレス http://ando-harumi.com/